

卷11オモロの重複関係ノート

波照間 永 吉

『おもろさうし』第11巻「首里ゑとのおもろ御さうし」には96首のオモロがあるが、そのうちの82首が第21巻「くめの二間切おもろ御さうし」と重複しているといわれる。第21巻は周知のとおり、錯簡等の理由で『おもろさうし』に記されたままでは1篇のオモロとして体をなさないものが多数ある。

それを解消しようとしたのが世礼国男「久米島オモロに就いて」（『南島』第二輯 1942年）、仲原善忠「かがり糸ーおもろさうしの基礎的研究第1集ー」（1943年）などの研究であった。これらの成果は仲原善忠・外間守善編『校本おもろさうし』（1965年 角川書店。以下「校本」と略称。）、西郷信綱・外間守善『おもろさうしー日本思想大系18ー』（1972年 岩波書店。以下「岩波本」と略称。）で具体的に開示されている。

本ノートは上記の先学の研究成果のもとに、巻11と巻12のオモロの間にある問題について考えるための資料として作成した。結果はいずれ検討を加えて明らかにされるだろうが、ひとつ目立った点を指摘すると、巻11オモロよりも巻21オモロの方が行数が大きくなっていることである。それは1710年の「書き改め」の際の「元本」がどのようなものであったかーかつて存在したと考えられる「おもろさうし」の諸本について考える際の一材料となるにちがいない。

本ノートのもうひとつのねらいは「重複オモロ」の整理のための手続きについて考えることである。オモロには300余首の重複したオモロが存するといわれている。（上記『おもろさうし』（1972年）等参照）。これらを一般に「重複オモロ」とよびならわしているのであるが、その「重複」概念を規定・整理したような、まとまった研究はこれからである。何を「重複」とみるかは、「重複」とされる両者の細かな検討を経て導き出されるものであるのはいうまでも

ない。その作業がオモロ全巻でなされるとき、「重複」歌・類歌といった整理のための術語の規定が可能となるだろう。

本ノートはそのようなことを考えつつ、巻11オモロと巻21オモロその他との間の重複関係をみたものである。

なお、本ノートは以下の手続きで作成されている。

1. テキストには『校本おもろさうし』を用いた。重複の指示は「校本」「岩波本」によった。ただし、節数・行数のカウントは岩波本『おもろさうし』によった。本文の行変えなどの整理が「校本」より進んでいるからである。
2. 「重複オモロ」間の字句の表記上の相違は無視した。(例・あおりやへ＝あふりやい) また、詞句間の異同についても原則として、その相違の微小なものについてはいちいち指示しなかった。
3. 「重複オモロ」間の節名のちがいは示した。
4. 表中の記号は次のことを示す。
 - ① =……「重複オモロ」の両者の節数・行数・詞句等が同一である。
 - ② ≡……「重複オモロ」の両者の節数は同一であるが、行数、詞句、節名等が異なる。なお、行数の大小については各オモロのノート末尾に「〈、〉」の記号を用いて示した。
 - ③ >、<…「重複オモロ」の両者の節数の大小を示す。
 - *……巻21オモロで、混入部分を削除した形の第一次復元オモロである。
 - **…巻21オモロで、混入部分を削除し、他所に混入していたオモロを寄せてきて付加した第二次復元オモロである。
5. 参考文献として、上記のテキスト以外に
 - 世礼国男「久米島おもろに就いて」(『南島』第二輯所収)
 - 池宮正治『おもろさうし諸本校異表』(1980年 ひるぎ社)
 - 玉城政美「オモロの歌形」(『琉球大学法文学部紀要国文学編』第25号 1981年)等を参照した。

卷11才モ口重複関係ノート

卷11番号 (通し番号)	節 数 (行数)	重複才モ口番号 (通し番号)	重複才モ口節数 (行 数)
1 (556)	2 (4)	重複なし	
2 (557)	4 (8)	21-16 (1409)	9 (19)
3 (558)	7 (23)	21-17 (1410)	7 (19)
		21- 50 (1443)	12 (19)
			*2 (5)
4 (559)	8 (17)	21-18 (1411)	8 (17)
		21-106 (1499)	2 (4)
5 (560)	7 (16)	21-19 (1412)	7 (16)
6 (561)	9 (17)	1 -35 (35)	9 (19)
		21-20 (1413)	9 (19)
		21-63 (1456)	6 (14)
			*1 (3)
7 (562)	2 (4)	21-21 (1414)	2 (4)
8 (563)	2 (4)	21-22 (1415)	2 (5)
9 (564)	5 (11)	21-23 (1416)	4 (9)
10 (565)	4 (5)	21-91 (1484)	4 (8)
11 (566)	4 (6)	21-39 (1432)	4 (9)
		21-92 (1485)	5 (12)
			*2 (5)

ノ ー ト

- 11-2の2～4節が21-16の7～9節となる。21-16の7～9節は混入の指示アリ。11-2の1節は21にナン。重複とは認めない。
- 11-3≡21-17。11-3の11、15、19、23行の「あちおそいす」、「あんしおそいす」(反復句の一部)、「あんしおそいす、ちよわれ」(同上)が21-17では省略されている。(11-3>21-17 行数)。
- 11-3>*21-50。11-3の1、2節が21-50の1、2節となる。21-50の3～12節は三部の混入から成る。この三部の行数と21-17の3～7節までの行数は12で一致する。
- 11-4=21-18。
- 11-4>21-106。11-4の1、2節が21-106の1、2節となる。21-106の2節は「ゑんけらへ、ありる」を欠いている。21-106は断片かと思われる。
- 11-5≡21-19 11-5の12行の「ふため」を21-19には欠く。
- 11-6≡1-35 11-6には1-35に記された「おしやたる、せいくさ」(5行)、「もどりよわれ」(13行の一部)、「あおてすもどりよれ」(19行)が欠けている。1-35の5、19行の二行の欠落が両者の行数の差異となっている。(11-6<1-35 行数)
- 11-6≡21-20 11-6と21-20との異同は11-6と1-35の異同に同じ。節名の部分は11-6=21-20である。1-35の節名は「おらそいおもろのふし」。(11-6<21-20 行数)。
- 11-6>*21-63。11-6の1節が21-63の1節の一部(5行で1節の4行目までとなっている。5行目からは二つの混入部分のうちの一つ)となっている。21-63は断片オモロ。
- 11-7=21-21。
- 11-8≡21-22。11-8には21-22に記された、反復部の一部「あやきやね」が欠けている。この異同が両者の行数の差となっている。(11-8<21-22)。
- 11-9>21-23。11-9の第5節(10、11行)「あやみやの、ころた／たちより、ゐより、まちより」が21-23には欠けている。
- 11-10≡21-91。11-10には21-91の4、6、8行の「たりるこの」(反復部の一部)が記されていない。これが両者の行数の差となっている。(11-10<21-91 行数)
- 11-11≡21-39。11-11には21-39の5、7、9行の「もゝあち、やらはや、ちよむ」(反復部の一部)が記されていない。これが両者の行数の差となっている。(11-11<21-39 行数)。
- 11-11>*21-92。11-11の1、2節が21-92の1、2節となっている(2節の一部まで)。21-92の第2節には3行記されているが、3行目からは混入部分である。この混入部分は21-36の4行目「まゑ」の下につづく。

巻11番号 (通し番号)	節 数 (行数)	重複オモロ番号 (通し番号)	重複オモロ節数 (行 数)
12 (567)	3 (9)	21-40 (1433)	2 (4) *1 (3)
13 (568)	4 (9)	重複なし	
14 (569)	3 (4)	21-27 (1420)	3 (4)
15 (570)	4 (7)	21-28 (1421)	3 (7)
16 (571)	6 (13)	21-29 (1422)	3 (6)
17 (572)	2 (7)	21-64 (1457)	6 (17)
18 (573)	7 (11)	21-65 (1458)	7 (16)
19 (574)	5 (6)	21-66 (1459)	5 (6)
20 (575)	4 (5)	21-67 (1460)	13 (14) *2 (3)
21 (576)	12 (13)	21-96 (1489)	5 (8) 5 (6) **12 (13)
22 (577)	4 (6)	21-61 (1454)	11 (16) *4 (9)
23 (578)	4 (6)	21-110 (1503)	4 (9)
24 (579)	4 (5)	21-111 (1504)	4 (5)
25 (580)	3 (8)	21-112 (1505)	3 (8)

ノ ー ト

- 11-12>*21-40。11-12の1節の3行目「けらへ」までが21-40の1節となっている。21-40は断片オモロ。(11-12>21-40行数)。11-12の1節3行目の「きみ」以下末節まで21巻にナン。
- 11-14≡21-27。21-27には節名の記載なし。
- 11-15≡21-28。11-15は4節から成る(21-28は3節)が、歌形論的に「又」記号を整理すると最終「又」は不要で、それをとり除くと3節から成り、21-28と同じ形になる。
- 11-16>21-29。21-29には11-16の第3節「又 かわはんた、おりやり」までしかなく、断片である。11-16の第3節「こゝはんた、みれは」以下最終節まで巻21にナン。
- 11-17の第1節2行の「てるくもは」以下末尾までの6行が21-64の末尾6行に混入しているだけ。この点から11-17と21-64とは本質的に重複しているとは言えない。21-64の重複オモロは11-73(1~5節)である。11-17の第1節1、2行「きみよしか／さしふ」は巻21に見出されない。
- 11-18≡21-65。11-18には21-65の8、10、12、14、16行の「きみよ、ほこり、よわちゑ(へ)」(反復部の一部)が記されていない。これが両者の行数の差となっている。(11-18<21-65 行数)
- 11-19=21-66
- 11-20>*21-67。11-20の第2節までと、21-67の1、2節とが重複している。21-67の第3節以下は混入部分である。この混入部分は21-87の2行目につづく。11-20の3、4行「又 中くすくおmoi／又 きもたかのおmoi」は巻21-95末尾2行に混入。
- 11-21≡**21-96。11-21の1~5節が21-96の1~5節となっている。21-96の末尾2行は他からの混入。11-21の6~12節は21-61の後半部に混入。これらの混入部分を整理復元すると11-21≡**21-96となる。
- 11-22≡*21-61。11-22には21-61の5、7、9行の「もゝすゑ、とよむ」(反復部の一部)が記されていない。また、21-61の末尾5~11節までの7行は21-96の6行目の後へつづくものの混入である。これを整理すると11-22≡*21-61となる。21-61は節名を欠く。
- 11-23≡21-110。11-23には21-110の5、7、9行の「ゑ、け、みのかわ」(反復部の一部)が記されていない。これが両者の行数の差となっている。21-110は節名を欠く。(11-23<21-110 行数)。
- 11-24=21-111。
- 11-25=21-112。

巻11番号 (通し番号)	節 数 (行数)	重複オモロ番号 (通し番号)	重複オモロ節数 (行 数)
26 (581)	6 (11)	21-113 (1506)	6 (10)
27 (582)	4 (11)	21-114 (1507)	3 (9)
28 (583)	6 (13)	重複なし	
29 (584)	4 (6)	重複なし	
30 (585)	4 (6)	重複なし 参考 21-79 (1472)	5 (11)
31 (586)	11 (12)	21-80 (1473)	11 (12)
32 (587)	5 (6)	21-81 (1474)	5 (6)
33 (588)	3 (4)	21-82 (1475)	3 (4)
34 (589)	3 (5)	21-83 (1476)	3 (7)
35 (590)	3 (6)	21-84 (1477)	3 (6)
36 (591)	5 (12)	21-85 (1478)	5 (12)
37 (592)	4 (6)	21-86 (1479)	4 (9)
38 (593)	12 (13)	21-87 (1480)	1 (2) *12 (13)
39 (594)	8 (9)	21-68 (1461)	8 (9)
40 (595)	4 (9)	9-5 (480)	3 (7)

ノ ー ト

- 11-26≡21-113。11-26の7行「こいしのす」(反復部の一部)が21-113には欠けている。これが両者の行数の違いとなっている。21-113の節名は「うらそいおもろのふし」である。(11-26>21-113 行数)。
- 11-27>21-114。11-27の最終節「又 やまと、ふねせに／こかね、もちよせる、くすく」の2行が21-114には欠けていて、これが両者の節、行数の違いとなっている。
- 本来重複とは認められないが21-79との関係についてふれると、11-30>21-79。21-79は11-79との重複オモロで、ここで不等号の印でむすばれているのは、21-79の後半部に混入した部分である。21-79は前4行—第2節1行まで—と後7行にわかれ、前4行が11-79と重複し、後7行が11-30と重複している。校本、岩波本は、そのためにか、11-30と21-79との重複を指示していない。もっとも、両書とも「冒頭に『一、おにのきみはゑやなさいきよに』を入れると585と同じおもろになる」(岩波本)旨記している。11-30の1、2行は巻21にはナシ。21-79では各「又」に「なさいきよに」(反復部の一部)が記されている。
- 11-31≡21-80。21-80の節名「やほうひちへまちよらかふし」。
- 11-32≡21-81。21-81の節名「うちいちへはすゑのちにやうるわしかふし」。
- 11-33=21-82。21-82の節名「うちいちへはかねくすくおもいくわのふし」。
- 11-34≡21-83。11-34には21-83の5、7行の「もゝうら、まちらす」(反復部の一部)が記されていない。そのために両者の間に行数の差があらわれる。(11-34<21-83 行数)
- 11-35≡21-84。21-84の節名「おもろねやあかりやすゑのちにやうるわしかふし」。
- 11-36=21-85。11-36の第3節「あやみね」が21-85では「あやみや」となっている。
- 11-37≡21-86。11-37には21-86の5、7、9行の「きこゑ、あちおそいや」(反復部の一部)が記されていない。両者の行数のちがいはそれによる。(11-37<21-86 行数)。
- 11-38=*21-87。21-87は11-38の第2～12節を欠落させた断片である。この欠落部分は21-67(1460)の第3節～13節という形で混入しており、それを21-87につなげると11-38と同形になる。
- 11-39=21-68。21-68のふし名は「——いけ——とそろわはおれわにかふし」と「おれわに」がある。第2節「せのきみや」が「せのきみきや」となっている。
- 11-40>9-5。9-5は11-40の第4節「又 くもこも、よりより／またまも、よりより」の2行が欠けている。両者の節数のちがいはそれによる。9-5の節名は「おわもりやげよのきみのふし」。

巻11番号 (通し番号)	節 数 (行数)	重複オモロ番号 (通し番号)	重複オモロ節数 (行 数)
		21-69 (1462)	4 (9)
41 (596)	4 (7)	21-70 (1463)	5 (9) *4 (7)
42 (597)	3 (7)	重複なし	
43 (598)	4 (7)	21-59 (1452)	4 (12)
44 (599)	6 (7)	21-24 (1417)	6 (7)
45 (600)	6 (9)	21-25 (1418)	6 (14)
46 (601)	6 (7)	21-26 (1419)	5 (10)
47 (602)	2 (4)	21-71 (1464)	2 (6) *2 (5)
48 (603)	3 (7)	21-30 (1423)	3 (7)
49 (604)	5 (13)	21-31 (1424)	5 (13)
50 (605)	2 (4)	9-25 (500)	2 (4)
		21-32 (1425)	2 (5)

ノ ー ト

- 11-40=21-69。節名の表記及び語句の「む←→も」の表記のちがいを除けば、両者は全同。
- 11-41=*21-70。21-70の混入部分、第5節「又 せたかこか、み御まへ／ねたて、もりくすく」の2行を除くと、21-70は4節7行から成り、表記上の差異を除くと、11-41とまったく重なる。
- 11-43≡21-59。11-43は21-59の6、8、9、11、12行の「おれる、かす」(6行)「おとゝきみ、やれとも／おれる、かす」(8・9、11・12行)(それぞれ反復部の一部)を記しておらず、両歌の行数の差はそれによるものである。(11-43<21-59 行数)。21-59は節名を欠く。
- 11-44=21-24。左の表示は11-44の5行の行頭に「又」を補った結果である。11-44は5節7行(21-24は6節7行)の形であるが、重複の両者には詞句のちがいはない。この両者を歌形論の立場から見ると、21-24の形の方が正しいといえる。よって、21-24に従って5行の行頭に「又」を補うわけである。
- 11-45≡21-25。11-45には21-25の6、8、10、12、14行の「おもろする、大や」(反復部の一部)が記されておらず、そのため両者の行数がちがっている。21-25の節名は「うらそいのおやのろかふし」。その他表記上の異同を除くと両者は同一。(11-45<21-25 行数)。
- 11-46>21-26。節数は11-46の方が6節で21-26よりも大きい。21-26には11-46の6節「又、せたかこかみ御まへ」が欠落している。しかし、行数は、21-26が10行と多い。11-46には21-26の4行「世まさる」、6、8、10行の「ねたて、もりくすく」(6、8、10行)(いずれも反復部の一部)が記されていない。そのために行数が21-26よりも少なくなっている。(11-46<21-26 行数)。
- 11-47≡*21-71。21-71の末尾行「きもたか、もりや」は21-73からの混入。これを除くと21-71は2節5行のオモロとなる。11-47には21-71の第5行「まゑ、さうす、ありちゑは」が記されておらず、両者の行数のちがいはそれによるものである。(11-47<21-71 行数)。21-71の節名は「おとゝきみまさりかふし」。
- 11-48=21-30。21-30節名は「うちいちへは、なこの、こてるわかふし」。
- 11-49≡21-31。21-31節名は「おもろなよくらかふし」。21-31の13行「おしあけわちへ ちよわちへ」。
- 11-50≡9-25。9-25の節名は「しけちなはかふし」。その他3ヶ所表記上の異同および助詞の相違、有無がみえる。それらを見れば11-50と9-25とは同一のオモロといえる。
- 11-50≡21-32。11-50には21-32の第5行「なさかおもいきみ」(反復部の一部)が記されていない。そのため両者の行数のちがいが生じている。(11-50<21-32 行数)。

巻11番号 (通し番号)	節 数 (行数)	重複オモロ番号 (通し番号)	重複オモロ節数 (行 数)
51 (606)	5 (8)	21-33 (1426)	5 (11)
52 (607)	2 (3)	21-34 (1427)	2 (3)
53 (608)	6 (7)	21-35 (1428)	6 (7)
54 (609)	4 (7)	21-36 (1429)	1 (8) *1 (4)
55 (610)	4 (9)	21-93 (1486)	7 (15) *4 (9)
56 (611)	4 (6)	21-74 (1467)	4 (10) *4 (8)
57 (612)	4 (6)	21-72 (1465)	4 (9)
58 (613)	4 (6)	21-73 (1466)	4 (6)
59 (614)	4 (7)	重複なし	
60 (615)	4 (6)	重複なし	
61 (616)	4 (7)	21-45 (1438)	6 (12) *4 (7)
		21-49 (1442)	4 (7)

ノ ー ト

- 11-51≡21-33。11-51には21-33の5、7、9行の「たりしよ、とよめ」(反復部の一部)が記されていない。そのため両者の節数のちがいが生じている。(11-51<21-33 行数)。21-33の節名は「うちいへは、こゑしのか、さしふ、とのはらかふし」。
- 11-52≡21-34。21-34の節名は「かさす、わかてたの、御みしやくの、きやけかふし」。
- 11-53≡21-35。11-53と21-35の間には詞句に若干の相違がみえるが(ex わかてたに←→わかてたよ、ぬきあけ←→ぬきあけは、とよたる←→とよた、おやおもい←→おやくもい)ここでは黙過した。21-35の節名は「うちいへはなこの、こてるわかふし」。
- 11-54>*21-36。21-36は一節8行から成っているが、5～8行の4行は他オモロの詞句が混入したものと考えられる(もっともこの詞句の一部が11-62、21-46にもあらわれている。校本、岩波本ともにこれが他からの混入した夾雑物と判断し、「はぶいて考えた方がよい」(岩波本617頭注)としている。それは11-62、21-46の重複オモロである7-25(369)にはこの句が記載されていないからである。しかし、11-62に関して言えば「は/まふり、よわれば/もゝすゑ、ちよわれ」は最初の「は」を除けば、他は反復詞と一致しており、校本、岩波本の判断は疑問である)。上記の11-54>21-36の関係は、21-36の5～8行の混入部分を除いて考えた。21-36は断片オモロ。
- 11-55≡*21-93。21-93には10～15行の6行3節が混入している。この混入部分を除くと両者の関係は上記のようになる。11-55と21-93の間の詞句の相違は微少である。(ex あすひよわれは←→あすひよわは、中もりに←→中もり、やりよわ←→やりよは)。混入部分は21-62をはさみ21-90につづく。
- 11-56≡*21-74。11-56には21-74の5、7行の「きもたか、もりや」(反復部の一部)が記されておらず、両者の行数の差はこれによる。(11-56<21-74 行数)。21-74の9、10行の2行1節は他からの混入部分である。この混入部分は21-48につづく。
- 11-57≡21-72。11-57には21-72の5、7、9行の「よの、いきつきの」(反復部の一部)が記されていない。両者の行数のちがいはそれによる。(11-57<21-72 行数)。
- 11-58=21-73。両者は表記上の若干の相違(「こいしの←→こゑしの」「あんしおそそい←→あちおそい」)を除いて、全同である。
- 11-61≡*21-45。21-45には末尾2節5行の混入オモロが付加している。この混入部分を除くと4節7行のオモロとなり上記の関係となる。この混入部分はどこからのものか不明。また、21-45には節名が欠けている。
- 11-61=21-49。11-61と21-49の関係は表記上の若干の相違を除けば全同である。11-61との重複オモロは21-45、49の二首であるが21-49の方が11-61とより完全

巻11番号 (通し番号)	節 数 (行数)	重複才モ口番号 (通し番号)	重複才モ口節数 (行 数)
62 (617)	9 (22)	7-25 (369)	9 (20)
		21-46 (1439)	9 (21)
63 (618)	3 (8)	21-37 (1430)	3 (10)
64 (619)	3 (4)	21-38 (1431)	3 (4)
65 (620)	5 (7)	21-43 (1436)	5 (7)
66 (621)	4 (5)	21-44 (1437)	4 (5)
67 (622)	4 (5)	21-102 (1495)	7 (11)
			*4 (5)
68 (623)	5 (6)	21-88 (1481)	5 (6)
69 (624)	4 (10)	12-62 (713)	4 (9)
		21-89 (1482)	4 (10)
70 (625)	13 (18)	21-90 (1483)	3 (7)
			*2 (5)
			**9 (19)

ノ ー ト

に近く重複している。

- 11-62≡7-25。11-62の末句「(みおやせ)は／まふり、よわれは／もゝすゑ、ちよわれ」に関する岩波本の頭注「重複おもろを比べると、369が原形であろうと思われる。従ってはぶいて考えた方がよい」は疑問。この部分は反復詞の記載と考える。両者の行数の相違はその詞句の有無による。(11-62>7-25 行数)。
 - 11-62≡21-46。21-46の末句「(みおやせ)は、まふり、よわは」を岩波本頭注は「はぶいて考えた方がよい」とするが、これは反復部の一部記載と考えられるから、頭注には従い難い。11-62のオモロが行数において1行多いのは、11-62の最終行「もゝすゑ、ちよわれ」が21-46には記されていないためである。(11-62>21-46 行数)。21-46の節名は「うちいちへはとかしきのかねつかふし」。節名は7-25と21-46が重なりをみせている。
 - 11-63≡21-37。11-63には21-37の7、10行の「のちすゑの、およは」(反復部の一部)が記されておらず、両者の節数の差はそのためである。(11-63<21-37 行数)。21-37の節名は「おもろねあかりしまたつなかふし」である。
 - 11-64=21-38。11-64と21-38の両者は全同である。
 - 11-65≡21-43。21-43は節名を欠く。
 - 11-66≡21-44。21-44の節名は「おにのきみはゑやなさいきよにしなてかふし」。
 - 11-67=*21-102。21-102には6～11行の6行が21-105より混入している。この混入部分は21-105の7行目の次に続くべきものである。
 - 11-68=21-88。21-88の5行目行頭に諸本〈校本含む〉とも「又」を欠くが、岩波本は「又」を補っている。歌形論的にみてもその方がよい。ここでは岩波本に従って21-88を5節6行のオモロとしてあつかう。
 - 11-69≡12-62。12-62には11-69の6行「おれてふれまへは」(反復部の一部)が記されていない。両者の行数の差はそのためである。(11-69>12-62 行数)。
 - 11-69=21-89 表記上の若干の相違を除くと、両者は同一である。
 - 11-70>**21-90。21-90には1節2行の混入部分が付加している。この混入部分は21-23につづくもので、それを除くと2節5行のオモロとなる。この2節5行のオモロは11-70の3節までにあたる。4節以後のオモロは21-62の2行～9行、21-93の10行～15行に混入している。これらを取りまとめると11-70と詞句の上では同一のオモロとなる。しかし、節数において、この復元オモロは9節(19行)となる。これは、21-90の5行と21-62の3、5、7行の行頭に「又」記号が付されていないためである。玉城政美氏「オモロの歌形」は625オモロを「I+II」の「混合型」とするが、それは「5、7、9、11行の『又』をとる。1～5節はII、6～9節はI(II→I)」という操作を施した結果である。
- 世礼国男「久米島おもろに就いて」では、11-70の6行～13行は21巻には欠く旨の指示があるが、これは誤り。この部分は21-62の2行～9行となっている。

巻11番号 (通し番号)	節 数 (行数)	重複才モロ番号 (通し番号)	重複才モロ節数 (行 数)
71 (626)	6 (7)	21-94 (1487)	6 (7)
72 (627)	8 (15)	21-95 (1488)	4 (7) *2 (5) **8 (15)
73 (628)	9 (24)	21-64 (1457)	6 (17) *5 (11) **9 (24)
74 (629)	4 (10)	21-42 (1435)	4 (7)
75 (630)	8 (14)	21-97 (1490)	8 (17)
76 (631)	4 (9)	12-59 (710)	3 (8) *2 (6)
		21-98 (1491)	7 (18)

ノ ー ト

- 11-71=21-94、21-94の節名は「あらかきのもりにうちあかるひやしかふし」と、「あらかきのもりに」が付加されているが、11-71の節名「うちあかるひやしのふし」と同一節名である。
- 11-72≡**21-95。21-95は4節7行の形を示しているが、3、4節2行は他からの混入部分で、これを除いた2節5行が11-72の2節の「みるやにや、よつき」までと重複している。「よつき、かみ」の「かみ」以下末尾までは二つのオモロに、別々に混入している。すなわち、上記の「かみ」以下、6節め(第5又)「いちへ、きり、やり、かね」までは21-104に混入し、「(かね) みさき、さしよわちへ」から末尾までは21-63に混入しているのである。これらの部分をよせあつめ復元したのが**21-95のオモロである。21-95第1節には「けわいつ」の後に「ゑけ」という句がある。
- 11-73≡**21-64。21-64は6節17行の形を示しているが、12行～17行(16行頭に「又」あり)は他からの混入部分で混入したオモロは11-17との重複オモロを構成すべき断片。11-17の冒頭の一部が21巻には欠けている。この6行を除いた5節11行が11-73の5節「あまみや きみはへや」までと対応している。それ以下末尾までは二つのオモロに別々に混入している。すなわち、5節の「てらちんのせち」から8節の「かみかいのち」までは21-63に混入し、8節「あんしおそいに、みおやせ」以下末尾までは21-34に混入している。これらの部分をよせあつめ、復元したのが**21-64のオモロである。21-34に混入した部分の末尾は「あちおそいに」つづけて「みおやせ」が記されている。
- 11-74≡21-42。21-42には11-74の6、8、10行の「かなふくに、おれわちへ」(6行)、「くに、なおちへ、おれわちへ」(8行)、「くに」(10行)といった歌詞の一部の記載がない。両者の行数の相違はそれによるものである。(11-74>21-42 行数)。なお、21-98(1491)の6行～13行にも21-42の同一オモロの断片がある。
- 11-75≡21-97。11-75と21-97には以下のようなちがいがあある。これが、両者の行数の相違となってあらわれる。6行「しまの」を21-97は欠く。7、8行「中くすくたけ」が21-97では「中くすく」で改行され、「たけ」の下に「みつき」が続き、「たけみつき」で一行をなしている。11行「しまの」は21-97に欠く。21-97では12、13、14行のそれぞれ後に「たけ、みつき」が一行ずつ入っていて、全体で17行のオモロとなっている。なお、校本は8節13行である。(11-75<21-97 行数)。
- 11-76>*12-59。12-59は3節8行から成るが末尾1節2行は混入オモロで、それを除いたものが*12-59である。12-59の節名は「うらおそいおらろのふし」で、これは22-3の節名とも同一である。また、21-98の節名も「うらおそいおもろかふし」で12-59、22-3の節名と同形である。*12-59には11-76の3、4節(7～9行)が欠けている。
- 11-76≡*21-98。21-98は7節18行の形を示しているが、6行～13行の3節は他か

巻11番号 (通し番号)	節 数 (行数)	重複才モロ番号 (通し番号)	重複才モロ節数 (行 数)
			*4 (10)
77 (632)	6 (7)	22-3 (1510) 12-60 (711) 21-77 (1470)	2 (6) 6 (7) 6 (7)
78 (633)	3 (5)	21-99 (1492) 21-78 (1471)	6 (7) 3 (8) *3 (7)
79 (634)	5 (11)	21-100 (1493) 21-79 (1472)	3 (5) 5 (11) *2 (4) **5 (11)
80 (635)	6 (11)	21-105 (1498)	3 (8) *3 (7) **6 (13)

ノ ー ト

らの混入オモロである。これを除いた*21-98は4節10行の形となる。(11-76<21-98 行数)。なお、この混入オモロの末尾に21-96の末尾に混入した「国、なおちへ、おれわちへ／なさいきよに」を続け、頭に「一、さすかき、国なおちへ、かなふくに、おれわちへ、なさいきよに」を補うと11-74、21-42との重複オモロとなる。ただ残念なことには上記の補いの部分は、巻21内には21-42の他には存在しない。

○11-76>22-3。12-59に同。12-59の項参照。

○11-77≡12-60。12-60の節名は「うらおそいおもろのふし」。節名と若干の表記上の相違を除けば11-77と12-60とは全同となる。

○11-77≡21-77。21-77には第2節「てたなさいきよ」の「なさいきよ」、第6節行頭の「又」字が欠けている。この「又」については岩波本に従って補うこととする。『おもろさうし諸本校異表』によると、第5節行頭の「又」は尚家本では「一」となっており、また第6節行頭も尚家本では「一」、仲吉本、田島本には「又」を欠いている。

○11-77=21-99。21-99の節名は「うちいちへはのちあかりかふし」。「うちいちへは」は11-77に欠く。

○11-78≡*21-78。21-78は3節8行の形であるが、3行「つしやこ、まかね」は誤記と思われるから省くと3節7行から成る。21-78の6行・8行の「つしやこの、まかね」(反復部の一部)は11-78には記されていない。両者の行数の相違はそれによる。(11-78<21-78行数)。

○11-78=21-100

○11-79=**21-79。21-79は5節11行の形を示しているが5行以下の3節7行は混入部分で、それを除くと2節4行の形となる。この2節4行は11-79の第1節と第2節の「しねりや、そよめきや」までの部分と重複している。2節の「みかなし、わかいきよ」以下の7行は21-104の後半部へ混入しており、それをつなげると、11-79と同じ形の5節11行のオモロとなる。

○11-80=**21-105。21-105は3節8行の形であるが、末尾1行(8行目)は他からの混入である。これを除いた3節7行の形は11-80の第1～3節までと重複している。11-80の4節～6節までの6行は21-102の末尾に混入しており、それをつなげると11-80=**21-105の重複オモロが完成する。(11-80<**21-105 行数)。但し、この**21-105と11-80との間には以下のような異同がある。即ち、まず11-80には**21-105の3行の「とのはらよ」が欠けている。また11-80には**21-105の4行、7行の「しまてん、くにてん、みおやせ」(反復部)が記されていない。**21-105の11行にある「みおやせ」が欠けている点である。4行、7行の省略が両者の節数のちがいとなっている。

巻11番号 (通し番号)	節 数 (行数)	重複才モロ番号 (通し番号)	重複才モロ節数 (行 数)
81 (636)	2 (5)	21-103 (1496)	2 (7)
82 (637)	7 (17)	21-104 (1497)	14 (35) *7 (19)
83 (638)	4 (6)	21-55 (1448)	4 (12)
84 (639)	4 (8)	21-56 (1449)	4 (14)
85 (640)	4 (9)	21-57 (1450)	4 (9)
86 (641)	7 (8)	21-58 (1451)	2 (3)
87 (642)	5 (6)	21-67 (1460)	13 (14) *2 (3)
88 (643)	10 (12)	重複なし	
89 (644)	4 (6)	重複なし	
90 (645)	2 (4)	重複なし	
91 (646)	4 (6)	重複なし	
92 (647)	4 (5)	重複なし	

ノ　ー　ト

- 11-81≡21-103。11-81には21-103の6、7行の「きまもりに、おれて／金すへ」（対句部と反復部の一部）が記されていない。両者の行数のちがいはそれによる。（11-81<21-103 行数）。
- 11-82≡*21-104。21-104は14節35行の形であるが、後半16行は他からの混入オモロである。これを除いた*21-104は7節19行のオモロで11-82と重複オモロである。11-82には21-104の12行、15行、18行の「やれこのゑ」が記されていない。また17行の「(かいか)のほて」が記されていない。これに対し、21-104には11-82の17行の「かいか」が欠けている（これは21-104が20行以下に他オモロが混入していることと関係のあることで、本来は「かいか、のほて、やれこのゑ」という形でつづいていたものと思われる）。両オモロの行数のちがいはこれらのことによるものである。（11-82<*21-104 行数）。その他はほぼ同一。
（21-104の混入オモロは二つの部分に分かれる。まず一つは21-95の5行に連続すべき9行と、今一つは、21-79の4行に連続すべき7行とである）。
- 11-83≡21-55。11-83には21-55の5・6、8・9、11・12行の「おこのみの、たかさ、くしかわ」という詞句が記されていない。両者の行数のちがいはこのためである。（11-83<21-55 行数）。
- 11-84≡21-56。11-84には21-56の6・7行、9・10行、13・14行の「あちおそい、てたの／このみ、よわる」という詞句が記されていない。両者の行数のちがいはそれによる。（11-84<21-56 行数）。21-56の節名は「ゑんことよたしよあちおそいてたとわかてたかふし」。
- 11-85=21-57。21-57の節名は「ゑんことよたしよおもいきみけらへきみかふし」。
- 11-86>21-58。21-58は11-86の第2節「又 おそい、きみはゑや」までしかない。11-86の第3節～7節までは巻21にナン。21-58の節名は「おにのきみはへやもゝうらのとよむかふし」。
- 11-87>*21-67。21-67には11行11節が混入している。（この混入部分は21-87の2行につづくもの）。この混入部分を除いた*21-67は2節3行のオモロとなる。*21-67は11-87の第2節「又 はたみ、いくさ、こうよ」までしかない。11-87の第3節～5節までは巻21にナン。11-87の重複として11-20もあげているが、厳密にいうと11-20は重複とは認められない。但し21-67の重複オモロとしては11-20、11-87の2首ともにあげなければならない。

巻11番号 (通し番号)	節 数 (行数)	重複オモロ番号 (通し番号)	重複オモロ節数 (行 数)
93 (648)	8 (9)	重複なし	
94 (649)	8 (9)	21-41 (1434)	7 (12) *6 (7)
95 (650)	13 (13)	重複なし	
96 (651)	7 (7)	21-52 (1445)	17 (17) *8 (8)

ノ ー ト

- 校本、岩波本ともに 11-94、21-41 との重複を指示するが、重複とは認めない。何故ならば 11-94、21-41 の反復詞の一部は「もりくすく、おれほしや」で本歌の「しまつれ、くにつれ、み物」とは異なっているからである。なお、反復詞の「しまつれ、くにつれ、み物」の前に「くまからうらおそいふし」と、一首の中に節名が 2 種もあるのは異例である。
- 11-94>*21-41。21-41 には 5 行 1 節が混入している。(この混入部分は 21-63 の 4～11 行をはさんで 21-64 の 11 行目につづく)。この混入部分を除くと 21-41 は 6 節 7 行のオモロとなる (*21-41 で表示)。*21-41 は 11-94 の 6 節 (7 行) めまでしかなく、7、8 節 (8、9 行) は欠いている。世礼国男「久米島おもろに就いて」は 11-94 末尾行と 11-95 は巻 21 にはないと指摘しているが、11-94 の末尾行は 21-40 の末尾に混入しており、末尾行の前 1 行が巻 21 には欠けている。校本、岩波本は 11-93 との重複を指示するが、これは認めない。11-93 の項参照。
- 11-96<*21-52。11-96 は 7 節 7 行から成る。21-52 は 17 節 17 行の形であるが、9 節以後の 9 行は他からの混入オモロであるとする校本、岩波本の指示に従うと、21-52 は 8 節 8 行のオモロとなる *21-52 がその形である。但し、混入とされる 9 節 9 行のオモロは岩波本の頭注が言うように「巻 11 にもこれに相当するものはなく、あるいは、21-52 はこれらも含めた 17 節 17 行のオモロと考えることもできようか。すなわち、11-96 は断片オモロで、7 節「ふなこゑらて、のせて」以下に「又 てかち、ゑらて、のせて／又 このとう、まうわしの／又 大と、まうかくの ——」と続くのが本来の姿であったとは考えられないか。11-96 には節名を欠くが、21-52 には「くめのこいしのかとりかるととりかふし」と節名が記されていることなども、11-96 の不完全さを証すとは言えるか。